

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月31日

令和3年度(5年目)

事業コード	2	事業名	各職員の得意分野を活かしたチーム支援と支援員の指導業務(情報収集)への参画			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	潟上市商工会	担当者名	太田 美咲	総轄者名	安田 幸博	施策コード	1	施策名	解決策提案による個社支援の強化		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景
 事業者を取り巻く環境は年々変化してきており、事業者からの支援ニーズが高度化し、また新たな支援テーマに対応しなければならない。そして、このような支援ニーズに応じていくために、より効果的で効果的な個社支援を実施していくことが求められている。

2. 事業のねらい
 各事業者が持つ経営資源「ヒト・モノ・カネ・コト(強み、ストーリー等)」を把握・記録・共有することにより、実現性の高い解決提案を行う体制を整備する。特に、コトについては事業者自身では気づかない点が多くあるため、職員全員で発掘し、経営カルテに記録・共有することで持続化補助金等の計画策定支援時に活用する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	-	H30	C	R1	B	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

これまでは職員間で事業者の課題を把握・共有していたものの支援は個々の職員で行っていたが、経営指導員と経営支援員のチームで取り組むことで新たな支援テーマにも得意分野を活かした対応を行った。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応
 ・支援テーマを設定し、経営指導員や経営支援員が連携して事業者の課題解決に取り組んだ。
 ・事業者に対して効率的に支援ができるようチーム支援による取組事例を職員間で共有した。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
・各職員の得意分野を活かしたチーム支援により、高度化する事業者の課題解決に取り組んだ。 ・経営支援員が情報収集だけでなく経営指導員のサポートを受け指導業務に取り組んだ。	・職員間のチームにより、新たな支援テーマを設定し実現に向け取組んだ。 ・補助金の申請は職員間による精査を行い、実現性の高い計画書の作成に至った。また、5年目には経営支援員も補助金の申請支援に取り組んだ。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	H29					H30					R1					R2					R3								
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標																													
実績																													
達成率																													
達成度																													

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価
【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) **a**

〈評価の理由〉
 ・事業者の支援ニーズが高度化していく中で、支援事例を共有することでより効果的に支援が行えるようになった。
 ・個々の職員だけでなく各職員の得意分野を活かしたチーム支援を行うことで新たな支援テーマにも効率的に対応できるようになった。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) **a**

〈事業の目標は達成されているかどうか〉
 ・5年間を通じて職員間での情報共有だけでなく、解決提案や実行支援の際にも職員同士が連携して行うことができるようになった。特に補助金活用や新分野進出にあたり、複数の経営指導員が事業計画を検討することで、有効性の高い計画策定につながった。
 ・経営指導員や経営支援員の職種を超えたチーム支援ができるようになり、事業継続力強化計画の作成など新たな支援テーマにも効果的に支援することができた。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) **a**

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉
 ・5年前までは事業者の課題解決支援にあたって、個々の職員が単独で対応することが多かったが、チーム支援により業務分担をすることで支援に要する時間を短縮し、より効率的に支援を行うことができるようになった。こうした要因もあり、超過勤務時間の低減につながった。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 **A**

・高度化する支援ニーズにも職員の得意分野を活かしたチーム支援による効果的かつ効率的な支援を行うことができた。
 ・経営指導員や経営支援員といった職種にこだわらず事業者の課題解決支援を行うことができた。

3. 課題

・経営環境の変化によって、さらなる高度化が予想される支援ニーズへの対応
 ・各事業者の経営課題を踏まえた事業再構築や経営革新など新しいチャレンジへの取組提案

4. 今後の対応方針(改善点)

・実効性の高い経営計画の策定から実行、フォローアップまで一貫した支援を行う。
 ・職員間だけでなく専門家を含めたチームによる強固な支援体制により、事業の発展や継続に向けた課題の早期発見及び解決策の提案を行う。